令和4年度 第2回大阪市地方独立行政法人天王寺動物園評価委員会 議事要旨

■開催日時：令和4年7月26日（火）15:30～17:30

■開催場所：天王寺動物園 TENNOJI ZOO MUSEUM

■出席者：

（委員）	植田 麻衣子	植田公認会計士事務所 所長
	佐渡友 陽一	帝京科学大学生命環境学部 講師
	高瀬 孝司	オフィスT 代表（委員長）
	豊島 ひろ江	中本総合法律事務所 弁護士
	原 久美子	公益社団法人日本動物園水族館協会 専務理事

（大阪市）	下田 健司	公園緑化部長
	木下 吉樹	公園緑化部調整課長
	横山 妹子	公園緑化部調整課（動物園支援担当）課長代理
	浦野 路与	公園緑化部調整課（動物園支援担当）係長

外2名

【議事要旨】

1 開会

2 地方独立行政法人天王寺動物園の令和3年度業務実績評価について

資料1・2をもとに市評価について事務局より説明

<意見>

【小項目評価について】

- ・ 小項目について、R3はⅡ評価がないが、それは必ずしもいいこととは限らない。何らかの理由でできないことはありうるので、Ⅱ評価を付けることを恐れずにいただきたい。（佐渡友委員）
- ・ 評価事例はあくまでも事例であるため、それに囚われないようにしてほしい。事例以外のことでも評価していくべきであるし、法人が自律的に課題を見つけていくようになることが望ましく、自発性を評価する仕組みとなってほしい。（豊島委員）
- ・ 職員へのインセンティブについて、今後どのような仕組みを構築されるのを見たい。（植田委員・佐渡友委員）
- ・ 人材育成について、職員のやりがいあるいは仕事に関する幸福度といったものを計測できる仕組みがあるとよい。（原委員）
- ・ 財務内容について、ハード整備の契約はこれからで、独法効果の発現は今後の課題とのことであるが、予算との比較・対比はできるはずである。次年度以降は、まず

は予算と比べてどうであったかの説明が欲しい。(植田委員)

- ・ 法人のメリットを生かした動物福祉やクラウドファンディング等、目立つところが評価のポイントとなっているが、地道に組織運営をしていくという当たり前のことを当たり前にやることも評価される仕組みになればよい。(豊島委員)
- ・ 教育活動のめざす姿として、中期目標に掲げられている「来園者の行動変容」であるが、これをモニタリングできる仕組みがあればいいと思う。(原委員)
- ・ 動物園の魅力向上という視点で、「他施設との連携」というのがあるが、天王寺公園という、主要なターミナルに近接していながら、動物園や美術館、芝生広場などのさまざまなエンタメ要素を併せ持った稀有な場所に存在しているという点で、公園内との他施設との連携が非常に重要である。その連携が薄れてしまうというのが、法人化の際の一つの懸念事項でもあったため、法人に対してというよりも、市に対してお願いしておきたい。(高瀬委員)

【大項目評価について】

- ・ 大項目のA・Bには異論はないが、中期目標の達成度と言う点において、どこに重きを置いて評価をしたのか、対外的な説明が必要である。(全員)
- ・ クラウドファンディングは直接的な保全活動ではないため、そのプロセスを評価したということがわかるように記載すべきである。(高瀬委員)
- ・ 動物福祉の取組みについては、ハズバンダリートレーニングや環境エンリッチメント等のキーワードが評価理由に出てきていないので、記載すべきである。(佐渡友委員)

【全体評価について】

- ・ 全体として、順調に1年目を迎えることができたという印象。その上で、①動物園の本来事業、②魅力向上、③経営・組織という大きな3要素でくり直して記載すれば、より分かりやすいのではないかと思う。特に③が5年後の法人の継続議論するにあたり、最も重要である。(高瀬委員)
- ・ 人員増による動物福祉の取組強化やクラウドファンディングなどの新たな取組など、既に独法効果が表れているので、そこは評価すべきである。(豊島委員)

資料3をもとに市評価について事務局より説明

<意見>

- ・ 3要素に集約して大きく見ること、分析しやすくなる。(全員)
- ・ 中期目標が何だったのかをよく確認して、あるべき姿を設定する必要がある。(高瀬委員)
- ・ 大項目及び全体評価は法人の自己評価する欄がないが、法人側から成果をアピー

- ルできる方が、法人のインセンティブにもつながるのではないか。(高瀬委員)
- ・ 評価には「法人と市のコミュニケーションツール」と「市民に情報公開するためのもの」という2つの側面がある。その両面から分かりやすくする必要があるので、それに向けて3要素で大きく括る方式でやってみる、というのはいいことである。その上で、事務が煩雑になる等の課題があれば、また見直せばいい。(佐渡友委員)
 - ・ 独法は、自律性・自主性を尊重し、事後チェックに重きを置いた制度なので、目標を決め打ちできないことも考慮して、分かりやすい形を用意する必要がある。(佐渡友委員)
 - ・ 独法化によりできたことに重きを置いて、評価していきたい。(高瀬委員)
 - ・ 3要素における5年後の姿を意識し、市・法人ともに共通の認識を持つことが重要であると思う。(高瀬委員、豊島委員)
 - ・ 動物園の本来事業、魅力向上、組織体制のあり方での評価事例を設定する際には、官民を問わず他園での状況も参考にしたい。(高瀬委員)

3 閉会